

口臭外来から考える医科歯科連携と先制医療の実践



医療法人慈慶会 ほんだ歯科 理事長

本田 俊仁 Toshihito Honda

座長
田中 善

口臭を主訴に来院する患者の多くは、歯科治療や口腔清掃を受けても改善が得られず、原因や治療法が分からないまま長年悩み続けている。口臭は歯周病やう蝕などの口腔内疾患だけでなく、口腔粘膜の状態、舌苔、口腔内細菌叢、口腔機能、唾液分泌機能、食生活や生活習慣、加齢、全身疾患など、多くの因子が複雑に関与して生じる。そのため、口臭診療においては口腔内だけを診るのではなく、患者背景を総合的に評価し、その原因に応じた包括的な診療が求められる。

本講演では、口臭専門外来における実際の診療の流れを紹介し、口臭患者に対してどのような視点で診査・診断を行い、どのような治療や生活指導を実践しているのかについて解説する。口臭の改善には、原因となる口腔疾患への対応に加え、食生活や生活習慣の改善、唾液機能の評価と改善、口腔の自浄作用を高めるためのセルフケア指導など、多角的な介入が重要となる。また、耳鼻咽喉科疾患や全身疾患など、歯科単独では対応が困難な症例では、適切な医科歯科連携が不可欠である。

さらに、口臭の背景因子の一つである加齢や酸化ストレスにも着目し、当院で取り組んでいる先制医療についても紹介する。水素吸入や NMN を活用した健康管理、自律神経を整えるための生活習慣への介入など、患者背景に応じた包括的なアプローチと、その考え方について述べる。

口臭は患者にとって切実な悩みである一方、その背景には全身の健康状態や生活習慣が深く関与している。口臭を契機として患者を包括的に評価し、生活習慣への介入や医科歯科連携を実践することは、疾病の発症や重症化を防ぐ先制医療にもつながる。本講演では、口臭外来の日常診療を通して培ってきた知見をもとに、口臭診療における医科歯科連携と先制医療の可能性について紹介する。

略歴

大阪歯科大学 卒業
Excellent Breath Alliance Clinic 代表